

2学期

2024. 8. 22

今日から、福島市立の学校は、2学期となる。どうもまだ慣れない。2学期というと、8月26日くらいからだった。8月22日は、夏休みの宿題の追い込み真っ盛りだった。22日だと、お盆が開けると、すぐに2学期という感覚になる。気分的にだいぶ違う。

昔は、2学期が始まり、テレビを見ていると、世の中はまだまだ夏休みだった。家族連れで遊んでいたりと、子どもが宿題や自由研究に追われたりする映像が流れた。福島の夏休みは終わっているのに、東京のほうはいいなあと思ったものである。その夏休みが、さらに短くなった。

笹谷幼稚園も、福島市立の学校である。始業式も終業式も、小学校や中学校と一緒にいる。始業式も終業式も、同じように行う。中身も変わらない。園児は、園児なりに、ピシっとした姿勢で式に臨んでいる。それがまたかわいい。

今までは、2学期始業式で、児童や生徒を前に校長として話をしてきた。今度は、園児を前にして園長として話をする。これが、今まで以上にむずかしい。校長のときは、話を短く、子どもの心に響くようなワンフレーズを常に考えていた。今度は、さらに話を短くして、園児に少しでも考えてもらえるようなワードに頭を悩ませている。園児の成長を褒めることができるような姿は何か。具体的な場面を選ぶようにしている。今までよりも、難易度が上がった。かなり鍛えられる。

小学生でも中学生でもそうだが、2学期の始業式の日、久しぶりに子どもたちに会う。体が一回り大きくなっていたり、表情が少し大人びていたり、その成長に驚かされることがある。わずか1か月あまりのことである。子どもというのは、日々成長している存在なのだということに、改めて気づかされる。

3学期制の学校であれば、一番長いのが2学期である。いろいろなことに取り組みやすい学期である。子どもたちも先生方も、1学期の成果をもとに、よい点はさらに進めるようにする。改善点があれば、その改善に向けてすぐに取りかかる。2学期のうちに、子どもたちは、さらに成長していく。その成長を後押ししていくのが、先生方であり、保護者である。子どもたちは、可能性をもった大切な存在である。この2学期のうちに、考えること、分かること、できるようになることがどんどん増えていく。その量も質も、想像を超えるものとなるだろう。一人一人の子どもたちが、この2学期に大きく成長できることを願うばかりである。